



鈴鹿市議会議員 なかにしだいすけ の活動報告

2012 9月議会

発行者：
中西大輔
鈴鹿市南若松町296-12
TEL&FAX：059-368-1110

議会報告2012

http://www.daisuke-nakanishi.net/
daisuke.nakanishi@gmail.com

携帯からブログをどうぞ



日々の活動から時事ネタで考えることまで、いろいろ書きつづっています。

http://blog.goo.ne.jp/daisukesodate/



平成24年 9月定例会議決一覧(議案のみ)	
※黒太ゴシック文字になっている議案には反対がありました。	
第56号	平成24年度鈴鹿市一般会計予算 (第1号)
第57号	平成24年度鈴鹿市国民健康保険事業特別会計予算 (第1号)
第58号	平成24年度鈴鹿市下水道事業補正予算 (第1号)
第59号	鈴鹿市防災会議条例の一部改正について
第60号	鈴鹿市災害対策本部条例の一部改正について
第61号	鈴鹿市火災予防条例の一部改正について
第62号	訴えの提起について
第63号	調停の成立について
第64号	市道の廃止について
第65号	市道の認定について
第66号	平成23年度鈴鹿市一般会計決算の認定について
第67号	平成23年度鈴鹿市国民健康保険事業特別会計決算の認定について
第68号	平成23年度鈴鹿市土地取得事業特別会計決算の認定について
第69号	平成23年度鈴鹿市福祉資金貸付事業特別会計決算の認定について
第70号	平成23年度鈴鹿市老人保険特別会計決算の認定について
第71号	平成23年度鈴鹿市老人保険特別会計決算の認定について
第72号	平成23年度鈴鹿市下水道事業特別会計決算の認定について
第73号	平成23年度鈴鹿市農業集落排水事業特別会計決算の認定について
第74号	平成23年度鈴鹿市介護保険事業特別会計決算の認定について
第75号	平成23年度鈴鹿市後期高齢者医療特別会計決算の認定について
第76号	平成23年度鈴鹿市下水道事業会計特別剰余金の処分及び決算の認定について
議案 1、14、30号に反対。残りは賛成しました。	
賛成討論：2会派 (2人)	
反対討論：2会派 (2人)、1 諸派 (1人)	

9月定例会報告

補正予算で学校体育館つり天井改修やEV導入などが計上。H23決算の結果25億円が財政調整基金へ上積み。

その他議案について

校舎の耐震強度不足の問題に関するもので、関係業者との和解金についての内容です。

訴えと調停に関して、それぞれ瑕疵期間などの課題について、担当の委員会で議論がなされました。

今9月定例会では、補正予算で議会から提案されたり、過去の一般質問で取り上げられたりしたことが採用されていたりしており、執行部と議会の関係について、また議会としての意見集約とその重さについて、示唆に富んでいたと思います。

論点！9月討論要旨

決算認定について

平成23年度一般会計決算の認定について、財政調整基金への25億円積み増しは、自然災害はもちろん不透明な国際情勢などへの備えと評価。

新年度予算策定では厳しい中でも、住んで良かったと、住民満足度が向上するよう、市民も含め、民間の力を活かすよう取り組むべき。

総務費 各種手当について見直しをすべき。指定管理者制度を見直すべき。職員のスキルアップの研修拡充の予算確保と、研修中の人的支援の仕組みづくりに取り組むこと。

民生費と衛生費 10年前に比べ額が増えているが実感しにくいことに対し、業務改善と、市民に対する啓発などに取り組むべき。地域医療に専門的かつ戦略的に取り組む部署を設置し、予算を配分すること。

土木費 道路、水道、下水道、ガスなどの民間インフラなど関連情報を連結し、全体としてインフラ更新の見通しを立てるべき。

商工費と農林水産業費 次世代自動車はもちろん6次産業育成への予算配分を。地域公共交通では、住民をはじめとした民間の発想や活力を活かすあり方を検討、南部Cバスは抜本的な改善案を提示すべき。

教育費 新設を予定している給食センターについて、平成25年度中に、市内生産の農林水産製品の生産と給食をリンクさせる政策立案に取り組むことを強く提言。

市税及び税外収入 滞納情報を一元的に整理するシステム構築に取り組む、生活再建の意思が湧くような支援をする。そうでない人には毅然と接し、不納欠損のより一層の縮減に取り組むべき。

補正予算について

平成24年度鈴鹿市一般会計補正予算(第1号)について。学校体育館つり天井改修について、議会意志を尊重したことも含め評価。千代崎中体育館も着実に推進を。市立体育館く体調査費で、調査コストを下げたことは評価。長寿命化等を検討する際、副体育館を中学校体育館程度の規模で再建するなど検討すべき。

EVの公用車導入は評価。市内企業が開発等に参入しやすいよう、平成25年度に公的施設に急速充電設備の設置を。充電時以外は西玄関に駐車し、市民の目に留まるよう工夫を。

平成23年度一般会計歳入決算 (単位は円)	区 分		平成23年度 決算額	22年度との比較
	市 税		284億1994万	－6億 708万1千
自主財源 347億4148万3千円 (－2億3180万9千円) ※地方公共団体自らが収入額の見積もり、賦課、徴収ができるもの	分担金・負担金		11億 653万3千	1701万4千
	使用料・手数料		9億4805万7千	－2249万1千
	財産収入		2億7005万6千	－1億6111万
	寄附金		834万3千	－6124万8千
	繰入金		6億9304万2千	2億4280万6千
	繰越金		7億8600万5千	5億 115万8千
	諸収入		25億 950万3千	－1億4085万8千
依存財源 251億 837万7千円 (－4億3721万4千円) ※国や都道府県の意味決定に基づくもので、自主的には確保できない。	地方譲与税		6億4439万8千	－1427万7千
	利子割交付金		1億1234万2千	－780万
	地方消費税交付金		17億7746万	2410万7千
	地方特例交付金		3億4259万7千	－3936万3千
	地方交付税		43億7863万1千	5億8465万5千
	国庫支出金		85億4446万	－7億6616万2千
	県支出金		41億5184万6千	3710万7千
	市 債		47億6190万	－2億1990万
	その他		3億9474万1千	－3543万
合 計			598億4986万	－6億6902万4千

※市税は、市民税（個人、法人）、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、特別土地保有税、入湯税、都市計画税で構成されています。23年度は、市民税（個人、法人）と固定資産税が前年に引き続いて減少しています。

平成23年度一般会計歳出決算 (単位は円)	区 分		平成22年度 決算額	21年度との比較
	議会費		5億3039万	1億3664万1千
歳出総額 569億2320万8千円	総務費		61億2757万3千	－2億4165万
	民生費		212億3881万3千	4億1195万5千
	衛生費		52億8031万5千	－3億6868万
	労働費		2億4602万8千	－70万1千
	農林水産業費		16億5830万8千	2946万8千
	商工費		9億3389万7千	－1億3021万8千
	土木費		63億8048万	－10億3629万6千
	消防費		30億8054万4千	2億9718万8千
	教育費		44億3194万1千	－1億8187万4千
	災害復旧費		1847万2千	1624万7千
	公債費		55億9644万3千	－2億1177万7千
	諸支出金		14億	－2997万
	予備費		0	0
	合 計		569億2320万8千	－13億 967万

※平成21年から約41億円減少しています。議会費の伸びは、議員年金廃止に伴い、掛け金からプールされていたお金が枯渇し、今受給されている年金について、その自治体負担となったことによるものです。民生費は毎年伸びています。